

## 伝説「三毛入野命の帰還と鬼八伝説」

(皇子、荒神退治の伝説)

### 概要

神道信仰の原点が綴られている古い歴史書である、日本書紀（古代日本書）において、日本の初代天皇の兄の三毛入野命は、東征の途中、荒海で亡くなったと書かれています。しかし、高千穂伝説によれば、三毛入野命は、命を落とすことなく高千穂の国に帰還し、荒神・鬼八と戦い退治しました。鬼八は村人を苦しめてきた難攻不落の神です。しかし、厳しい戦いの末、三毛入野命は鬼八が二度と蘇ることのないように、三つに切って別々に埋めました。

これが現在まで、高千穂で有名な伝説の一つです。今も高千穂の周りには、この伝説の跡があちらこちらに残っています。毎年、高千穂神社では鬼八の祟りを鎮め、二度と悪行を働かないように「猪掛祭」が執り行われています。

=====

### 鵜目姫を助け出す

その昔、荒ぶる神・鬼八は、二上山の洞窟に住んでいたと言われていました。鬼八は、山を降りては、あらゆる村人に悪行を行い、鵜目姫をさらって鬼ヶ岩屋にかくまっていました。

ある日、高千穂の国に帰還してきた日本の初代天皇の兄で有名な武士の三毛入野命が五ヶ瀬川を渡っていると、池のほとりの水鏡に美しい姫の姿が映っているのを見かけ、心を奪われてしまいます。この姫こそが鵜目姫であり、鬼八に無理やり連れてこられ、妻にさせられた、と知らされました。鵜目姫を助けたい一心で、三毛入野命は、鬼八を退治することに決め、四十四人の家来を集め、鬼八の洞窟に攻め入る準備をします。

### 荒神・鬼八との戦い

厳しい戦いが始まり、鬼八の強さと回復力ははかりしれません。三毛入野命が何度打ち負かしても鬼八は息を吹き返します。たとえ鬼八の亡骸を埋めても、たった一晩で鬼八は立ち上がり、岩を動かし、大声で荒れ狂うのです。そのため三毛入野命は次の戦いに鬼八の体を三つに切って、頭、胴、手足とバラバラに埋めました。ついに鬼八は、再び蘇ることができなくなりました。鬼八が退治され、三毛入野命は鶺目姫をめとり、8人の御子を育て上げます。そして子孫代々この高千穂を治めてきたと言われていました。

### 高千穂にある伝説の跡

高千穂の町では、伝説にまつわる数多くの聖跡を目にすることができます。高千穂峡の近くにも、三毛入野命が初めて鶺目姫に出会ったとされる七杵池、三毛入野命との戦いで鬼八が三毛入野命に投げたとされる200トンの石「鬼八の力石」などあります。鬼八が切られて埋葬したといわれる3つの鬼八塚も訪れることができます。首塚はソレスト高千穂ホテルのそば、胴塚は旅館神仙西50mのところ、そして、手足塚は高千穂高校の裏手にある淡路城跡にあります。

この伝説は、今も高千穂で生きつづけています。鬼八は退治されても、その怨念は深くたびたび祟りが出て、早霜が降り、作物に被害を与えたといわれています。そこで毎年、三毛入野命、鶺目姫とその子孫が祀られている高千穂神社で、鬼八の魂を鎮めるために猪を供えてお祭りが執り行われます。神官たちは「鬼八眠らせ唄」を歌い、祭りのために歌舞、神楽を奉納します。このお祭りは、「猪掛祭」と呼ばれ、旧暦の十二月三日に行われています。